
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2013年11月～12月）

気 象 庁

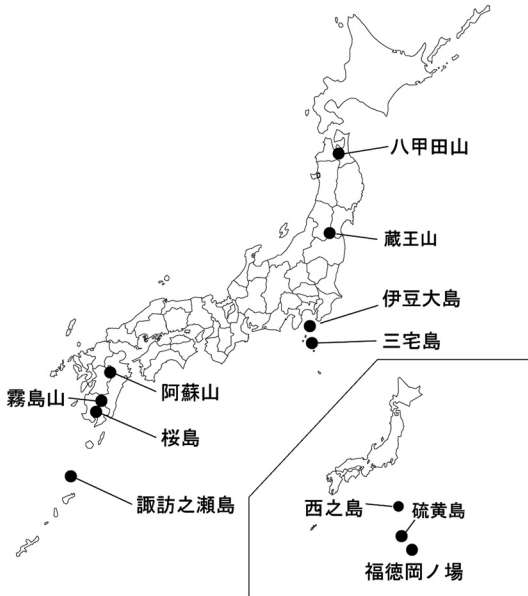


図 1. 2013年11月～12月に目立った活動があった火山

八甲田山 (40° 39′ 32″N, 140° 52′ 38″E)

東北地方太平洋沖地震（2011年3月11日）以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加した状態で経過している。2013年4月下旬以降に増加した大岳山頂直下付近が震源と推定される地震活動は、7月下旬以降、減少傾向にある。12月23日に大岳山頂直下で、29日には南八甲田火山群^{くしがみね}ヶ峰の東側を震源とする火山性地震が一時的に増加したが、その他の期間は少ない状態で経過した。

11月21日に実施した現地調査では、これまでの調査と比較して（前回2013年8月7日）地獄沼周辺や賽の河原の噴気や地熱域の状況に特段の変化はなかった。

山体周辺の地殻変動観測では2013年2月頃以降、小さな膨張性の地殻変動がみられていたが、8月頃から鈍化し、11月頃からは停滞している。

蔵王山 (38° 08′ 37″N, 140° 26′ 24″E)

11月1日と12月4日、8日に火山性微動が各1回発生した。11月1日と12月8日の火山性微動の発生直前に、これまでみられていたような傾斜計データのわずかな

変化が認められた。微動の発生前後で、その他の観測データに特段の変化はなかった。火山性地震は少ない状態で経過した。

伊豆大島 (34° 43′ 28″N, 139° 23′ 40″E)

12月21日頃から伊豆大島の東部を主な震源とする火山性地震が増加した。12月30日21時55分に発生したマグニチュード2.1の地震では大島町波浮^{はぶみ}港で震度1を観測した。

GPSによる観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いているが、2011年頃から鈍化してきている。その他の観測データには、活動状態の変化を示すデータはみられない。

三宅島 (34° 05′ 37″N, 139° 31′ 34″E)

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっている。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は概ね少ない状態で経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

GPSによる観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。一方、島の南北を挟む長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

西之島 (27° 14′ 49″N, 140° 52′ 28″E)

海上自衛隊からの連絡によると、11月20日10時20分頃、噴煙が確認された。その後の海上保安庁の観測（11月20日16時頃）によると、島の南東500m付近の海上に長径約300m、短径約200mの新島が出現し、噴火していることが確認された。このため、20日18時03分に火山現象に関する海上警報を、18時20分に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表した。

その後の海上保安庁等による観測では、新島での噴火の継続と溶岩流の流出が確認された。噴火活動により新島が拡大し、12月26日の観測で新島の北側に伸びた溶岩流が西之島と接続し、両島が一体となっているのが確認された。

硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

島西部の旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）で

は、昨年（2012年）2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震はやや少ない状態で経過した。振幅の小さい火山性微動が時々発生したが、微動の発生の前後で、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。国土地理院の地殻変動観測では、2013年5月頃から隆起の傾向がみられていたが、9月頃からほぼ停滞し、11月頃から沈降に転じている。

福德岡ノ場 (24° 17′ 05″N, 141° 28′ 52″E)

12月16日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、湧出点から東方向へ約1,850mに伸びる緑色の変色水域が確認された。また、12月28日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近に変色水は確認されなかった。

福德岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53′ 01″N, 131° 05′ 49″E (中岳))

12月20日頃から火山性微動の振幅が次第に大きくなった。24日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,100トンと前回（12月12日、700トン）よりも増加した。また、25日に実施した、中岳第一火口の現地調査では、湯だまりの量は1割以下で、火口内の中央付近では、高さ10m程度の土砂噴出を確認した。

中岳第一火口の火山活動に高まりがみられることから、火口から概ね1kmの範囲に大きな噴石を飛散させる噴火が発生する可能性があるかと判断し、27日10時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げた。

31日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり900トンとやや多い状態が続いていた。

霧島山 (新燃岳) (31° 54′ 34″N, 130° 53′ 11″E (新燃岳))

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

噴煙活動に特段の変化はなく、火山性地震も少ない状態で経過した。火山性微動は2012年3月以降観測されていない。地殻変動観測に特段の変化はなかった。

桜島 (31° 34′ 38″N, 130° 39′ 32″E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は、11月が69回（そのうち爆発的噴火は50回）、12月が40回（そのうち爆発的噴火は22回）であった。噴煙の高さの最高は、11月24日16時23分に発生した爆発的噴火による火口縁上4,000mであった。11月4日

10時32分、12月14日21時46分の爆発的噴火では、大きな噴石が3合目まで飛散した。また、11月18日16時28分、24日16時23分、26日01時31分及び29日02時45分の爆発的噴火では、桜島島内で、それぞれ最大約1cm、7mm、約1.5cm、約1cmの小さな噴石（火山れき）を確認した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、12月24日と29日にごく小規模な噴火が発生した。

火山性地震の月回数は少ない状態で経過し、噴火に伴い火山性微動が発生した。今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり900~1,800トンとやや多い状態であった。GPS連続観測では2013年2月頃から桜島島内の膨張の傾向が見られていたが、7月ごろから停滞またはわずかな縮みの傾向がみられる。また、国土地理院の地殻変動観測によると、鹿児島（錦江）湾を挟む一部の基線では、長期的な伸びの傾向が続いていたが、6月頃から停滞気味である。鹿児島地方気象台における降灰量は、月合計で11月が7g/m²、12月が18g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、11月が約50万トン、12月が30万トンであった。

諏訪之瀬島 (29° 38′ 18″N, 129° 42′ 50″E (御岳))

御岳火口で、活発な噴火活動が継続した。爆発的噴火の回数は、11月が7回、12月が247回であった。このうち、12月29日は爆発的噴火が125回発生する等、活発に経過した。また、29日は、00時頃から03時過ぎにかけて空振を伴う火山性微動が発生した。噴煙は雲のため不明だったが、連続的な噴火が発生していたと考えられる。遠望カメラでは、噴火に伴い火口付近に飛散する噴石を確認し、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

上島村役場諏訪之瀬島出張所によると、8日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認された。また、12月28日から29日にかけて、島内では空振によるガラスやふすま等の揺れが感じられた。

（お知らせ）最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

（文責：気象庁地震火山部火山課 末峯宏一）

○人事公募

【(独)産業技術総合研究所】

(独)産総研ポスドク（イノベーションスクール生）公募
平成 26 年度イノベーションスクール生を公募します。

将来、イノベーション創出を担う産業技術人材として活躍する意欲のある方からの応募をお待ちしています。

職務内容・応募資格等の詳細については、産総研イノベーションスクールホームページをご参照下さい。

http://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/employment/index_2014PD.html

応募締切：2014 年 1 月 16 日（木）17 時 「必着」

問い合わせ先：

(独)産業技術総合研究所

イノベーションスクール事務局

電話：029-849-1600

メール：school-saiyou-ml@aist.go.jp

URL：http://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/index.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 17 日送信しました)

【福岡大学国際火山噴火史情報研究所】

1. 公募する職種と人員

PD 研究員 1 名

2. 研究所の目的

本研究所は、噴火史研究に関する基礎的な学術情報を、理学と工学が連携することによりデータベース化し、知的財産として多岐にわたる活用を目指している。具体的には、1. 噴火史編年に関する研究、2. データベースの構築、3. データベースの活用（アウトリーチ、企業への還元）、4. 研究集会の開催、5. 英文学術誌（International Journal of Eruptive History and Informatics）の刊行を行う。

3. 応募資格

博士または Ph.D.の学位を有する方（平成 26 年 3 月現在）

4. 研究・業務内容

上記の研究所の目的に沿って、噴火史に関する研究（地質学、岩石学、年代学など）、データベース構築に関する研究（情報科学など）、それらの社会還元に関する研究（アウトリーチ・防災）を、当研究所構成員のいずれかと共同して進める。

また、本公募の PD 研究員は、研究所唯一の専属スタッフであり、年 2 回の研究集会の準備・運営、ウェブページやメーリングリストの管理など、研究所運営への貢献も期待される。

研究所の詳細は <http://www.acrifis-ehai.fukuoka-u.ac.jp/EHI/> を参照のこと。

ac.jp/EHI/ を参照のこと。

5. 採用予定期間

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日（1 年間）
次年度以降の更新もあり得るが、当研究所の予算および資金獲得状況による。

6. 給与

月額 30 万円（税・諸費用込）。詳細は直接問い合わせること。

7. 公募締切

平成 26 年 1 月 27 日（月）必着

8. 選考方法

選考は、書類審査および面接（インタビューも含む）による。

面接は、東京大学地震研究所（東京都文京区）で開催予定の研究集会「火山噴火履歴解明のための露頭データベース構築法の検討」(平成 26 年 2 月 8 日(土)～9 日(日))にあわせて実施する。なお、旅費は実費を支給する。

9. 提出種類

- (1) 履歴書（連絡先には E-mail アドレスを明記すること写真貼付け）
- (2) 研究業績リスト（著者名をすべて記載、原著論文、総説、著書、その他などに分け、査読の有無を明示のうえ、新しいもの順に通し番号を付すこと）
- (3) 採用後の研究内容（研究業績リストと関連づけて 2000 字程度にまとめる）
- (4) 主要論文の別刷（3 編以内、コピー可、学位論文および投稿中の論文も可）
- (5) 応募者について問い合わせ可能な方 2 名の氏名および連絡先

10. 書類送付先および問い合わせ先

〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

福岡大学理学部地球圏科学科

奥野 充

電話：092-871-6631（内線：6289）、

E-mail：okuno@fukuoka-u.ac.jp

* 応募書類は必ず書留や配達記録郵便などで送付し、封筒の表に「国際火山噴火史情報研究所 PD 研究員公募書類」と朱書すること。応募書類は、審査終了後に処分します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 7 日送信しました)

【山梨県富士山科学研究所】

1. 採用予定人員

1 名

2. 募集職種
非常勤研究員（火山防災研究に関する分野）
3. 雇用期間
平成26年4月1日から平成30年3月31日（4年間）を予定。ただしこの間にあっても年度ごとの更新制となる。
4. 勤務形態
週5日間、35時間勤務
5. 報酬等
県の正規の研究職に準じて積算された額を支給する。職員宿舎（築17年）入居可能
6. 保険等
雇用保険、健康保険、厚生年金保険に加入する。
7. 応募資格
次の各号に該当し、地方公務員法第16条の規定を準用した欠格事項に該当しない者。
 - i 地球科学(特に火山学)について専門的知識を有し、フィールドワークができる者
 - ii 火山学的研究能力特に溶岩流・テフラの流下・降灰シミュレーションに関する研究能力を有する者で、火山災害に対する減災対策、防災教育等が遂行できる者
 Ⅲ 修士若しくは博士の学位または是に準ずる業績、能力を有する者
8. 採用予定日
平成26年4月1日
9. 提出書類
 - i 履歴書(別紙 第1号様式 こちらからダウンロードできます)
 - ii 研究業績書(別紙 第2号様式 こちらからダウンロードできます)・著書、学術論文、その他を項目別に分けて記載する。なお、論文については、査読のある雑誌に掲載されたものと、それ以外のものに分けて記載すること。
 - ・共著の場合は、共著者名を全員記載すること。
 - ・学位取得論文については、その旨を明記すること。
 Ⅲ 学位、学歴を証明する書類
- iv 戸籍抄本
- v 写真(縦4cm×横3cm、裏面に氏名を記入すること)
- vi 研究業績の概要(A4用紙に1~2枚程度、様式は任意)
- vii 今後の研究計画及び抱負(A4用紙に1枚程度、様式は任意)
- viii 主要論文の別刷(コピー可)5編以内
- ix 推薦書(1通、様式は任意、自薦の場合は照会可能

な方1名の氏名、所属、連絡先を記載でも可)

10. 書類提出締切
平成26年2月3日(月)(必着)(郵送「書留」としてください。)
11. 書類提出後のスケジュール・書類選考を行い、書類選考に合格した方のみ面接を行います。
 - ・面接の日程等については後日、該当者に連絡します。
 面接会場：山梨県環境科学研究所
12. 提出先及び問い合わせ先
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田字剣丸尾 5597-1
山梨県環境科学研究所 総務課
電話：0555-72-6211
URL：<http://www.yies.pref.yamanashi.jp/>
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月16日送信しました)

【産業技術総合研究所】

公募課題名：火山噴火推移予測の高精度化
配属予定ユニット：地質情報研究部門 マグマ活動研究グループ

採用制度：博士型任期付研究員または中堅型研究員(※1)
採用予定時期：平成27年4月1日
任期：A：博士型任期付研究員5年(平成32年3月31日まで)またはB：中堅型研究員なし：定年制
概要：火山地域の地質調査及び噴出物の解析等に基づき噴火履歴と噴火現象を解明する研究を担当し、かつ、火山噴火時などの緊急野外調査に貢献する、基本的または高度に専門的な経験を有する研究者を募集する。

関連情報 <http://unit.aist.go.jp/igg/magma-rg/>

問い合わせ先

篠原宏志

E-mail：igg-saiyo26-ml@aist.go.jp

Tel：029-861-3691

応募内容詳細および応募方法：下記のURLの〈公募番号〉地質情報-7をご覧ください。

http://www.aist.go.jp/aist_j/humanres/02_kenkyu/task/5_geological.html#koumoku2

※切：平成26年4月16日(必着)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月17日送信しました)

【防災科学技術研究所】

観測・予測研究領域 地震・火山防災研究ユニット・契約研究員(研究員型)1名
業務内容

当研究所で実施するプロジェクト研究「火山活動の観測予測技術開発」において下記の研究業務を行う。

- (1) 噴火メカニズムの解明と噴火・災害予測シミュレーション技術開発
- (2) 国際火山データベース WOVodat の開発および運用

応募資格

- (1) 博士の学位を有する者（着任までに取得見込みの者を含む）またはこれと同等以上の学識経験を有するものであって、上記研究開発業務に従事するに十分な研究能力と意欲を有すること。
- (2) 本業務の遂行に関連する火山物理学もしくは地震学分野に関する十分な知識、及び、研究開発の能力を有すること。
- (3) 火山シミュレーション技術開発、データベース開発・管理等の能力を有することが望ましい。

雇用期間

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで
ただし、予算の状況、従事している業務の必要性及び勤務成績により、期間満了時に更新することがある
(1 事業年度単位で 4 回を限度とする。)

勤務地 独立行政法人防災科学技術研究所つくば本所
茨城県つくば市天王台 3-1

給与等 当所規程により決定する。(年俸制)

提出書類

1. 履歴書（別紙様式 1）
2. 主要研究概要（別紙様式 2）
3. 業績リスト（別紙様式 3）
4. 今後の研究に関する抱負（別紙様式 4）
5. 推薦書（自薦の場合は意見書：様式の指定なし）
6. 参考資料として、主要論文の別刷（3 編以内：コピー可）

※別紙様式は当所指定様式をダウンロードして作成してください。

※封筒に「契約研究員（研究員型）（火山活動予測）応募書類在中」と朱書きし、簡易書留郵便にて送付してください。

※本募集に関連して提出された個人情報については選考の目的に限って使用し、選考終了後は採用された方の情報を除き、全ての個人情報は責任を持って破棄します。

応募期限 平成 26 年 2 月 17 日（月）必着

詳細は下記をご覧ください

http://www.bosai.go.jp/tender/saiyo/20140123_01.pdf

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 28 日送信しました)

【防災科学技術研究所】

観測・予測研究領域 地震・火山防災研究ユニット 契約研究員（技術員型）1 名

業務内容

業務内容：基盤的な高精度地震火山観測研究において、下記の業務を担当する。

- (1) 火山観測施設の整備に関わる掘削工事や機器設置等に対し、技術的な指導・助言を行う。
- (2) 対象火山の活動履歴の整理の業務を行う。
- (3) 基盤的火山観測網の保守及び維持管理業務を行う。

応募資格

- (1) 大学卒業者又はこれと同等以上の学識経験を有する者であって、上記内容に関連する分野の業務に従事するに十分な知識と能力を有すること。
- (2) 火山活動に関する知識を有し、火山観測施設整備の経験があるもの。
- (3) 観測施設整備で採取される岩石コア試料を地質学的に記載できる知識と能力を有すること。

雇用期間

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日

ただし、予算の状況、従事している業務の必要性及び勤務成績により、期間満了時に更新することがある
(1 事業年度単位で 4 回を限度とする。)

勤務地 独立行政法人防災科学技術研究所つくば本所
茨城県つくば市天王台 3-1

給与等 当所規程により決定

提出書類

1. 履歴書（別紙様式 1）
2. 職務経歴書
3. 今後の抱負（別紙様式 4）
4. 推薦書（自薦の場合は意見書：様式の指定なし）

※別紙様式は当所指定様式をダウンロードして作成してください。

※推薦書の宛先は、「防災科学技術研究所理事長」あてとしてください。

※封筒に「契約研究員（技術員型）（火山活動の観測予測技術開発）応募書類在中」と朱書きし、簡易書留郵便にて送付してください。

※本募集に関連して提出された個人情報については選考の目的に限って使用し、選考終了後は採用された方の情報を除き、全ての個人情報は責任を持って破棄します。

応募期限 平成 26 年 2 月 17 日必着

詳細は下記をご覧ください

http://www.bosai.go.jp/tender/saiyo/20140123_02.pdf

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月28日送信しました)

○その他の公募

【「環境賞」ご案内(募集中)】

第41回「環境賞」候補の募集をしています。

- ・対象：環境保全に関する調査，研究，開発，実践活動
- ・表彰
- ・環境大臣賞
- ・優秀賞(副賞100万円)
- ・優良賞(副賞50万円)
- ・締切

2013年12月20日(金)

- ・募集要項・申請書

<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/works/work01.html>

- ・主催：日立環境財団，日刊工業新聞
- ・後援：環境省

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月21日送信しました)

【平成26年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募】

特定非営利活動法人日本火山学会

会長 宇都浩三

特定非営利活動法人日本火山学会では，平成26年度日本火山学会賞・同研究奨励賞候補者の推薦を以下の要領で公募しますので，ふるって応募下さい。

なお，日本火山学会論文賞については公募をしません。

表彰事業の内容

1. 日本火山学会研究奨励賞(Young Scientist Award)：火山学に関する優れた論文を発表し，将来，火山学の発展への貢献が期待される本会会員で，平成26年4月1日で35歳以下の者。(今回の公募対象)
2. 日本火山学会賞(Volcanological Society Award)：日本の火山学の発展に特段の貢献のあった個人または団体，非会員でも対象になります。(今回の公募対象)
3. 日本火山学会論文賞(Best Paper Award)：雑誌「火山」あるいは「Earth, Planets and Space」に掲載された論文中，火山学に関する独創的で特に優れた論文の著者。平成26年度の対象論文は前3年(2011-2013年)に出版されたものとします。(公募はしません)

推薦方法

- ・自薦・他薦を問いません。
- ・推薦者は非会員であっても構いません。
- ・下記の「推薦に必要な提出資料」を学会事務局まで

お送り下さい。

選考方法と受賞

- ・各賞選考委員会が上記3賞受賞候補者の選考を行い，理事会において決定します。
- ・本年5月に開催される総会(日本地球惑星科学連合2014年大会)において承認された後，賞状の授与を行います。
- ・日本火山学会賞と同研究奨励賞受賞者には秋季大会で記念講演を行って頂きます。

また，それぞれ，受賞対象となった研究課題に関連する論文(レビュー論文)の「火山」への投稿をお願いします。

推薦の締め切り

平成26年3月14日(金)必着

推薦に必要な提出資料

以下のうち，1を電子メールの添付ファイル(MSWordかテキストファイル)として火山学会事務所へ送信下さい。また，2がある場合は郵送あるいはpdfファイル等を電子メールに添付して下さい。電子メールで送る場合は，必ずsubjectに「学会賞申請」あるいは「研究奨励賞申請」と明記して下さい。郵送の場合は，封筒の表に同様に朱書きして下さい。

1. 申請書類(様式は自由であるが，必ず以下の項目を含むこと)

- (1) 推薦対象の賞名(学会賞か研究奨励賞かのいずれかを記述)
- (2) 被推薦者氏名，生年月日，所属，連絡先，電子メールアドレス，団体の場合は，団体名，連絡先，代表者名とその連絡先などを記述のこと。
- (3) 被推薦者の学歴，職歴，研究歴。団体の場合は活動歴。
- (4) 推薦者氏名，所属，連絡先，電子メールアドレス，被推薦者との関係。自薦の場合は，本人の研究活動を熟知する照会者の氏名，所属，連絡先，電子メールアドレス(推薦者や照会者は複数であっても構わない)。
- (5) 受賞対象となる研究課題名(40字以内)
- (6) 推薦理由

- ・1000字以内で簡潔に推薦の理由，特に，被推薦者(あるいは団体)の研究活動の火山学における重要性(もしくは評価されるべき点)をできるだけ具体的に記述のこと。
- ・研究奨励賞においては，対象となる論文(複数可)も明記すること。
- ・学会賞においては，被推薦者(あるいは団体)の活動に関して，日本の火山学の発展への貢献度

や社会的な位置づけについても簡潔に記述すること。

(7) 主要な業績のリスト

- ・最近のものから通し番号を付して記述する。
- ・主な業績については、それぞれ、その内容と火山学的位置づけを250字以内で解説すること。

(8) 本人の承諾書

- ・他薦の場合は、被推薦者本人（あるいは被推薦団体代表者）が電子メールで事務局に直接送信のこと。自薦の場合は不要。
- ・研究奨励賞においては、本人の研究活動に関して火山学における位置づけについて自らの見解（500字以内）を必ず記述すること。

2. 参考資料

- ・選考のために参考となる客観的資料があれば1部ずつ添えること。
- ・一般雑誌の論文別刷りは不要。
- ・提出書類は要求がない限り返却しない。

推薦書提出先

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9

モンテベルデ第2 東大前 406号

日本火山学会事務局

電話/FAX 03-3813-7421

e-mail : kazan@khaki.plala.or.jp

問い合わせ先

各賞選考委員長 高田 亮（産業技術総合研究所）

Tel : 029-861-3928, Fax : 029-861-3526

e-mail : a-takada@aist.go.jp

選考委員（各賞選考委員会）

大場 武, 鍵山恒臣, 鈴木桂子, 武尾 実, 中川光弘, 村上 亮, 山岡耕春

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月16日送信しました）

【京都大学防災研究所】

地域防災実践型共同研究の募集

○地域防災実践型共同研究（特定）

- ・研究期間2年
- ・各年度500万円以内、総額1,000万円以内

○申請の締切：平成26年3月31日（月）

詳細の公募要領につきましては防災研究所HPをご参照ください。

http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/contents/leftmenu_kyodo_new20140117.html

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月24日送信しました）

【地層処分の技術的信頼性に関する意見募集】

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術WGでは、科学的知見に基づく地層処分における好ましい地質環境特性について、専門家からの意見を募集しております。募集期間は平成26年1月24日から平成26年2月24日です。詳細は下記HPを御覧ください。

<http://www.enecho.meti.go.jp/rw/shobungijyutsu-iken.html>
問い合わせ先

資源エネルギー庁放射性廃棄物等対策室

地層処分の技術的信頼性に関する意見募集担当

電話：03-3501-1511（内線4781）

E-mail : rwt-opinion@meti.go.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月28日送信しました）

○シンポジウム等のご案内

【アイスランド火山噴火災害に関する講演会】

逐次通訳付き

講師 ヨナス・エリアソン（アイスランド大学教授・京都大学防災研究所客員教授）

日時 2013年11月27日（水）13：30-16：30
（開場：13：00）

会場 京都大学東京オフィス（品川）

主催 京都大学防災研究所防災公共政策（国土技術研究センター）研究分野

http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/contents/event_text/20131127.pdf

ヨナス・エリアソン教授は、火山国アイスランドにて火山噴火の総合防災研究に携わってきました。アイスランドで最も危険な火山と呼ばれるカトラ火山噴火への対応計画策定のアドバイザーを務めると共に、北欧州の航空を数週間麻痺させた2011年エイヤフィヤトラヨークトル火山噴火時に火山灰の航空機観測を行い、観測に基づく噴煙の拡散のより正確な予測手法を開発しています。その成果は、2011年グリムスヴォトン火山噴火時の航空規制にも生かされました。本講演会では、日本の大規模火山災害への対応の参考とするため、アイスランドでの事例と最新に研究成果の2トピックスを紹介させていただきます。

参加：無料、定員：50名

事前登録：11月25日までに、下記連絡先に氏名・所属を連絡

連絡先：吉谷純一・工藤由佳

Phone : 0774-38-4659

E-mail : kudo.yuka.4e@kyoto-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月25日送信しました)

【第8回 西日本火山活動研究集会「モニタリングとカルデラ噴火」】

会 場：福岡大学 理学部 (18号館)

開催日：2013年12月14日(土) 10:30~18:00

参加費：無料

主 催：西日本火山活動研究集会

共 催：福岡大学 産学官連携研究機関 国際火山噴火史情報研究所

参加登録：別紙 (<http://chai-www.rd.fukuoka-u.ac.jp/EHI/>)
記入の上、FAXもしくはE-Mailにて事務局(稲倉宛)までご連絡ください。

当日参加も受け付けますが、懇親会参加の希望の方は11日(木)までにご連絡ください。

FAX: 092-781-6748

E-Mail: h-inakura@wjec.co.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月9日送信しました)

【高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム「スプリング・サイエンスキャンプ2014」参加者募集】

開催日：2014年3月21日~3月29日の期間中の2泊3日

対 象：高等学校、中等教育学校後期課程(4~6学年)または高等専門学校(1~3学年)

会 場：大学、公的研究機関、民間企業等(12会場)

定 員：受け入れ会場ごとに8~20名(計164名)

参加費：2000円(食費の一部に充当。自宅と会場間の往復交通費は自己負担)

応募締切：2014年1月24日(金) 必着

主 催：独立行政法人 科学技術振興機構

共 催：受入実施機関

応募方法：Webより募集要項・参加申込書を入手し、必要事項を記入の上事務局宛送付

<http://www.jst.go.jp/cpse/sciencecamp/camp/>
スマートフォンサイト:

<http://www.jst.go.jp/cpse/sciencecamp/camp/sp/>

応募・問い合わせ先：サイエンスキャンプ本部事務局
(公財)日本科学技術振興財団 人財育成部内
TEL: 03-3212-2454 FAX: 03-3212-0014
E-mail: camp-boshu25@jsf.or.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月13日送信しました)

【地震と自然災害のための測地学国際シンポジウムのご案内】

日本火山学会員の皆様

International Symposium on Geodesy for Earthquake and Natural Hazards

GENAH (ジーナ) 2014 開催および講演申込開始のお知らせ

表記国際シンポジウムが今年7月末に開催されます。特に Session 6 Geodetic Techniques in Volcanological Research は、火山学に密接なセッションになりますので、皆様の積極的な発表申込をお待ちしています。

=====

「地震と自然災害のための測地学国際シンポジウム(GENAH2014)」

開催年月日：2014年7月22日(火)~25日(金)、

26日(土) 巡検

場所：ホテル大観荘(宮城県松島町)

主催：GENAH2014 実行委員会、国際測地学会第3コミッション

詳細：GNSSなどに代表される測地技術は自然災害軽減のための基礎的情報を与えるものとして、ますますその発展・深化が期待されている。様々な時間・空間スケールの自然災害に対して、測地学の諸分野はいかにアプローチし、連携していくべきか?

世界の測地研究者が東日本大震災の場「東北」に集い、議論する。

2014年1月1日より講演申し込み受付を開始しました。下記、Websiteより申し込みください。

<http://genah2014.jpn.org>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月7日送信しました)

【『ブルーアース2014』開催について(海洋研究開発機構)】

独立行政法人海洋研究開発機構(以下「JAMSTEC」)では、一般の方に海洋地球研究への理解を深めて頂くとともに、研究分野の枠を越えた情報交換の場を提供することを目的として「ブルーアース2014」を開催します。

1. 開催日時：平成26年2月19日(水) 10:00~17:20 (9:30開場)

平成26年2月20日(木) 10:00~17:55 (9:30開場)

2. 開催場所：東京海洋大学 品川キャンパス

3. 入場料：無料(事前申込不要) 要旨集を会場で配布いたします。

4. ホームページ：<http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/>

blueearth/2014/

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月17日送信しました)

○連合大会関係

【2014年連合大会投稿受付開始】

大会委員会からご連絡いたします。

2014年連合大会(4月28日~5月2日横浜)の投稿受付が開始されました。投稿期間は1月8日から2月12日正午までです。火山関連セッションも複数開催されますので、学会員の皆様の積極的な投稿・発表をお願いいたします。

詳しくは、以下の連合大会HPをご覧ください。

http://www.jpгу.org/meeting/submission_t.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月8日送信しました)

○「火山」58巻4号 目次

「火山」58巻4号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

=====

・論説「幸屋火砕流堆積物及びその給源近傍相のガラス組成と堆積様式」

著者：藤原 誠・鈴木桂子

鬼界カルデラで発生した鬼界アカホヤ噴火(7300yBP)について、堆積物中の火山ガラス組成の分析を行った。その結果、幸屋火砕流堆積物のフローユニット内で途中から低シリカ火山ガラスが混入することがわかった。このことから、降下軽石をもたらしたプリニー式噴火の後、火道拡大が起こり幸屋火砕流が発生し、火砕流発生中に低SiO₂ マグマが高SiO₂ マグマに混合して放出されるようになったと考えられる。また、火砕流堆積物の同一フローユニット内で含まれる火山ガラスの組成が変化することは、累積型の堆積機構であったことを示す。

・論説「富士火山北東斜面の滝沢B火砕流堆積物の発生・堆積機構」

著者：田島靖久・吉本充宏・黒田信子・瀧 尚子・千葉達朗・宮地直道・遠藤邦彦

滝沢B火砕流は、富士火山の北東斜面、吉田口登山道付近の燕沢で約1500年前に発生し、滝沢に沿って約5~7km 流下した。滝沢B火砕流に関する堆積物調査から、発生源の火砕丘群と流下域の火砕流堆積物の火砕物構成種変化に相関性があり、火砕流を発生させた火砕丘群の崩壊が低い所から高い所へ移って行っ

たと考えられる。また、古地磁気測定から、火砕丘の表層部から内部の高温部へ崩壊が進行したと推定される結果が得られた。この頃北東山麓では、滝沢B火砕流堆積物と同じ堆積構造の火砕流堆積物が複数見られ、崩壊に伴い火砕流が発生していたと考えられる。

・論説「桜島火山、横山コアから見出された火砕流堆積物の岩石化学的特徴」

著者：山元孝広・下司信夫・小林哲夫

気象庁による平成21年度のポアホール型火山観測施設の整備に伴い採取された桜島-横山コアは、これまで知られていなかった桜島火山形成初期の活動や基盤の形態を知る上で重要な鍵であることが、コア試料の検討から明らかになった。すなわち、深度59.60-69.34mは新期北岳開始時のSz-P14の給源近傍相である水底火砕流堆積物、深度73.22m以深は始良カルデラの基盤を構成する火砕流堆積物からなる。

・論説「The 18-19 ka Andesitic Explosive Eruption at Usu Volcano, Hokkaido, Japan」

著者：Yoshihiko GOTO, Yuko SEKIGUCHI, Satomi TAKAHASHI,

Hayuru ITO and Tohru DANHARA

北海道南西部の有珠山東方に分布する有珠上長和テフラ(Us-Ka)は、有珠山起源の最も古いテフラであると考えられる。Us-Ka テフラは、洞爺湖中島起源のNj-Os テフラを覆い、有珠外輪山溶岩に覆われる。テフラは、主に安山岩質の軽石からなり、そのSiO₂量は61-62wt.%である。テフラ直下の土壌層は、18-19 cal ka BPの放射性炭素年代値を示す。テフラの層厚と最大粒径は有珠山に向かって増大する。Us-Ka テフラは、有珠山の約18-19kaの爆発的噴火により形成されたと考えられる。有珠山は、安山岩質の爆発的噴火により活動を開始し、玄武岩質溶岩(有珠外輪山溶岩)を噴出して成層火山を形成した。そして、この成層火山の山体崩壊後に、珪長質マグマの噴出により溶岩ドーム群を形成した。有珠上長和テフラは、有珠外輪山溶岩(玄武岩)と溶岩ドーム群(デイサイト)の中間的な化学組成を示し、岩石学的にも興味深い。

・論説「2009年気象庁阿蘇山ボーリングコアの層序」

著者：宮緑育夫・星住英夫

阿蘇火山中岳火口周辺域において掘削された2009年気象庁阿蘇山ボーリングコア(深度100mの層序・岩石記載および全岩化学組成分析を行った結果、中岳では約8000~5000年前とそれよりやや古い時期に、岩相の酷似した玄武岩質安山岩溶岩を少なくとも3回流出したことが明らかとなった。このことから、中岳新期山体が約7300年前以前から形成され、少なくとも

も 2000 年以上の時間をかけて成長した可能性が新たに示された。また、他の可能性として古期山体（約 20000 年前）と新期山体の活動の間には別の山体が成長したと考えることもできる。

・寄書「個別要素法を用いた中-高粘性マグマの噴出シミュレーション」

著者：酒井 望・楠本成寿・清水賀之

地表面に噴出する中～高粘性溶岩を記述する個別要素モデルを作成した。10 MPas から 10 GPa の粘性のマグマを想定し、これらに火道中の上昇速度を与えることで、マグマの噴出をモデル化した。その結果、溶岩ドームあるいは溶岩流が形成される条件は、マグマの粘性だけでなく、火道中での上昇速度にも関係していることが明らかになった。また、溶岩ドームが形成されるためには、低粘性マグマほど大きな上昇速度が必要とされることも明らかにされた。本シミュレーションで形成される溶岩ドームの内部構造は同心円であり、過去のアナログ実験と調和的であった。

・解説・紹介「火山学勉強会 2013 報告」

著者：入山 宙・吉瀬 毅・佐野恭平・山下俊介

2013 年 8 月、長崎県島原市にて日本各地の学生による火山学勉強会を行った。本研究集会は、若手研究者（学部生・大学院生）が火山地質学分野・火山岩岩石学分野・火山地球物理学分野・火山化学分野等、分野を越えて各々の研究紹介を行うことにより、火山現象に関する知識を多角的に深めることを目的とし行っている。今回の勉強会では、研究発表会、避難所運営ゲーム（HUG）、野外討論会を行った。また、本勉強会のアドバイザーとして招待した鹿児島大学の小林哲夫教授による講演会も行った。他分野の火山研究に触れることにより、現在の火山学の流れやその背景・問題点について理解し、各々の研究に還元することができる。今後は、将来の火山学を牽引するリーダーが輩出されることを期待し、活動を継続していく予定である。

・口絵写真解説「トカラ列島南部、横当島、上ノ根島の噴気活動」

著者：及川輝樹・八木原 寛・高美喜男・平野舟一郎・中野 俊・中尾 茂・小林哲夫

トカラ列島南端に位置する、横当島と上ノ根島において噴気活動が発生していることを発見した。横当島は火山地形が新鮮であることから、完新世に活動した可能性が指摘されているが、気象庁の活火山には認定されていない。本稿では、今回発見した噴気の報告とともに、広く知られていない江戸時代における噴気活動や噴火（伝説めいているが）の記録の紹介も行う。

なお、上ノ根島からの噴気活動の報告は、有史以来

初めてである。

=====
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 6 日送信しました）

○理事選挙関係

【火山学会理事選挙立候補受付】

火山学会会員各位 平成 26 年 1 月 24 日

特定非営利活動法人日本火山学会

選挙管理委員会委員長 鶴川 元雄

特定非営利活動法人 日本火山学会 理事選挙立候補受付のお知らせ

日本火山学会の現役員の任期が平成 26 年 6 月末をもって満了となりますので、本学会役員（理事）の選挙を行います。次期の理事会が対応しなければならない国内外の様々な任務を考慮し、現理事会では次期理事の定員を 14 名以内とすることにしました。つきましては、下記の要領にしたがって理事候補者の受付を行います。立候補は、自薦他薦を問いませんが、候補者（被選挙人）は維持会員に限られます。

記

1. 被選挙人：維持会員（日本火山学会会員名簿をご参照ください）

特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙規程第 3 条により、被選挙人の資格は、維持会員に限られます。ただし、特定非営利活動法人日本火山学会定款第 16 条により、再任を妨げません。

2. 立候補：立候補は自薦他薦を問いません。立候補者または推薦者は、候補者および本会会員 3 名からなる推薦者の署名と印のある立候補（推薦）届出書*を締切期限までに選挙管理委員会（下記送付先）に提出してください。

3. 立候補（推薦）締切：平成 26 年 2 月 28 日（金）17 時 必着

4. 立候補（推薦）届出書送付先：

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9

モンテベルデ第 2 東大前 406 号

特定非営利活動法人 日本火山学会選挙管理委員会

※立候補届出書の様式は以下のサイトからダウンロードして下さい。

・立候補届出書（MS-WORD 形式）：

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/2014senkyo.doc>

・立候補届出書（PDF 形式）：

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/2014senkyo.pdf>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 24 日送信しました）